

JELA NEWS

ジェラニュース 第69号

2026年4月15日 発行

発行責任者 ペア 薫

公益財団法人 JELA 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 TEL.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援事業 / 世界の子ども支援事業 / 奉仕者育成事業 / 緊急災害支援事業

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイによる福音書25章35～36、40節)



JELAの奨学生が大集合!

JELAの運営する2つの難民奨学金「難民専門学校教育プログラム(RVEP)」
「JELAフィロクセニア奨学金」と奉仕者育成事業の「JELAディアコニア奨学金」
3つの奨学金の合同イベントを初開催しました

世界の子ども支援

インド・カンボジアのパートナーとオンライン会議 将来の展望と本年度の協働内容を確認(P6)

難民支援

【難民支援・奉仕者育成初コラボ】JELAの奨学生が一堂に会する「奨学生の集い2026」を開催!(P2,3)/約40人が母語で「きよしこの夜」を歌うJELAハウス・クリスマス会(P3)/難民シェルターの住込み管理人を募集中(P3)

奉仕者育成

インド・ワークキャンプ2026を開催!(P4)/創始者たちから引き継いだ使命を学校教育に JELA学校教育助成事業(P5)

その他の記事

ウェブリカのWebメディア「Shikisai」に出演!(P7)/JELAへの寄付で「税額控除」を受けられるようになりました!(P7)/支援者一覧(P8)/編集後記(P8)

JELAの奨学生が一堂に会する「奨学生のつどい2026」を開催！ 全国から51人、将来の夢を語る

JELAは、難民支援事業において「難民専門学校教育プログラム」(RVEP)と「JELAフィロクセニア奨学金」、奉仕者育成事業において「JELAディアコニア奨学金」と、計3種類の給付型(返済不要)奨学金を提供しています。3月7日、これらの奨学金を受給する学生たちや関係者をお招きして「奨学生のつどい2026」を開催し、全国から51人が集まりました。難民支援事業の奨学生とディアコニア奨学生が一堂に会する機会は、今回が初めてです。

イベントには、難民奨学生23人とディアコニア奨学生5人、そしてJELAと難民支援で協働・協力してくださっている国連機関や支援団体の方々や奨学生のご家族の方々がご出席くださいました。

新奨学生となる8人には、松岡俊一郎常務理事(JELA難民支援事業委員長・ディアコニア奨学金委員)から奨学生認定証が授与され、来場者からは、祝福の拍手が送られました。

3月に学業を終えられる難民奨学生の中で最も優秀な成績を取めた方に「最優秀奨学生賞」を贈っています。今年最優秀奨学生賞は、RVEPで介護を学んだミャンマー出身のポーユリーさんが選ばれました。



藤原穂乃花さん

JELAディアコニア奨学金では、「特別奨励賞」を設けて奨学金を受給中の方の中からディアコニアの精神である「キリストの愛をもって困窮する人や弱者を援助」に通じる活動や取り組みをしている方を顕彰しています。今年学内で障害を持つ学生の支援をしている藤原穂乃花さんが「特別奨励賞」に選ばれました。

今年学内で障害を持つ学生の支援をしている藤原穂乃花さんが「特別奨励賞」に選ばれました。



奨学生認定証を手にする4人の新RVEP生
柏富美子UNHCR駐日代表、松岡俊一郎JELA常務理事と共に

最優秀奨学生賞に選ばれたポーユリーさんのスピーチ

RVEPのおかげで、学業とアルバイトを両立しながら充実した学生生活を送り、無事に卒業を迎えることができました。奨学金によって安心して学業に向き合うことができ、勉強や学校生活にしっかり取り組むことができたと感じています。心より感謝申し上げます。



この場をお借りして、サポート21の矢崎理恵先生にも心より感謝いたします。小学生の頃から勉強を見ていただいただけでなく、進路や将来のことなど、たくさんの相談にも親身になって耳を傾けてくださいました。JELAの奨学金のことを紹介してくださったのも矢崎先生でした。本当に感謝しています。これまで多くの方々に支えていただいたからこそ、ここまで成長することができたと感じています。皆さまからいただいたご支援や温かい言葉を忘れず、これからも努力していきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

現在、JELAの難民奨学生は様々な分野で学んでいます。医師、看護師、介護士の医療系を目指している方、映画制作、理容師、を目指している方、特にIT、システム・エンジニア、ゲーム開発などの情報処理関連の分野は人気です。

ディアコニア奨学生は、人々に仕えるための分野で学んでいます。希望進路は牧師、心理士、社会福祉士、看護師、公衆衛生、国際関係、



懇親会の様子

農村指導者などです。

奨学生認定証の授与式の後は、懇親会を開き、互いの夢や学生生活の話などを話す場となりました。

JELAの給付型奨学金

在日難民のための奨学金

JELAフィロクセニア奨学金

難民や難民認定申請中の方を支援するための奨学金です。高等教育機関への進学や各種学び（研修や日本語学校）も対象となります。2027年度の募集開始は、2026年4月中旬からとなります。詳しくは、JELA公式ウェブサイト、または下掲2次元コードからアクセスしてください。



難民専門学校教育プログラム（RVEP）

UNHCR駐日事務所、公益財団法人ウェスレー財団、JELAの三者が共同で実施する専門学校へ進学を支援するプログラムです。2027年度のプログラム生の募集開始は、2026年4月中旬からとなります。詳しくは、JELA公式ウェブサイト、もしくは下掲2次元コードからアクセスしてください。



奉仕者育成のための奨学金

JELAディアコニア奨学金

JELAのミッションステートメントである「キリストの愛をもって仕える」ことを志す人を応援する奨学金です。2027年度の募集開始は、2026年6月中旬を予定しています。詳しくは、JELA公式ウェブサイト、もしくは下掲2次元コードからアクセスしてください。



難民支援

約40人が母語で「きよしこの夜」を歌う JELAハウス・クリスマス会

2025年も難民シェルター住民をお招きして「JELAハウス・クリスマス会」を12月16日に開催しました。JELAハウスは、都内2カ所にあり難民や難民認定申請中の方が無償で利用できる難民用のシェルターで、クリスマス会実施時には24の方が利用していました。

クリスマス会は、JELAハウスの入居者とJELAと難民支援に関わってくださる支援者の方が交流できる数少ない交流イベントのひとつです。参

加者は居住者の方だけでなく、以前JELAハウスに住んでいた方、日本語のレッスンを提供して下さる日本語教師のボランティアの方、各シェルターの管理人などが参加してくださり約40人が集まりました。

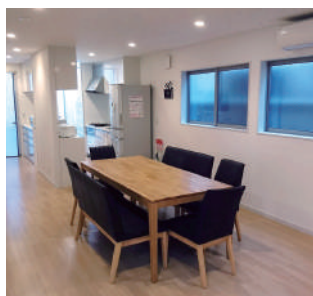
会は賑やかで温かな雰囲気が進み、食事会の後にはビンゴ大会などを実施しました。支援者の方からご寄贈いただいた衣類や食品は参加した難民の方へプレゼントとし



てお渡ししました。最後に参加者がそれぞれの母語で「きよしこの夜」を歌って閉会しました。

難民シェルター（女性専用）の住込み管理人を募集中

現在、難民シェルター（女性専用）の管理人を募集しています。JELAの難民支援事業に関心があり、女性専用シェルター管理人の業務に興味のある方は、右下の2次元コードからアクセスできるフォームにてご連絡ください。ご連絡をいただいた方には詳細をお伝えする場を設けます。



お問い合わせは
こちらから



《募集要項》

- 【募集】女性1名（または夫婦で住んでいただける方）
- 【シェルター所在地】東京都区部（北部）
- 【主な業務内容】女性専用難民シェルターの住込み管理全般（居住者へのゴミの出し方、ガスの使い方、設備・備品の使用方法や清掃の教示／緊急の対応／JELAへの定期報告など）
- 【報酬】管理人住居の無償提供・水道光熱費の免除／謝礼金を支給
- 【資格】成人の方で、難民支援や外国人に抵抗のない方／健康に自信があり、英語での簡単なコミュニケーションが取れる方

インド🇮🇳ワークキャンプ2026を開催!



2026年2月10～20日の日程で、インド・マハラシュトラ州ジャムケド市にてインド・ワークキャンプ2026を開催しました。日本全国から9名の学生が参加し、ジャムケド市の医療福祉団体「Comprehensive Rural Health Project (CRHP)」にて義足作りや施設修繕、農園整備などのボランティアワークを行いました！特に義足作りのワークではキャンプ期間中に制作された義足が47名の方に贈呈され、昨年交通事

故で片足を失い今回初めて義足を装着した方からは、「JELAの支援と参加者の働きによって、希望をもって人生を再スタートできる」と喜びと感謝の言葉をいただきました。また、チャプレンとして、日本福音ルーテル蒲田・横須賀教会の市原悠史牧師が参加し、聖書の御言葉を通してその日の活動を振り返る「ディボーション」を每晚リードしてくださいました。期間中に撮影した写真と共にキャンプの様子をご覧ください！



義足は1枚のアルミ板を切り出して作られます



完成した義足と一緒に



義足贈呈式で使用者と



プレスクールのペンキ塗り替えワーク



現地の社会福祉士の活動を見学しました



看護学生の参加者は病院でのワークにも従事しました

参加者の感想レポートはJELAニュースブログにて順次公開されます！
本紙次号(8月発行予定)にはレポート抜粋を掲載します
お楽しみに！



▲JELAニュースブログ

現在募集中! 今夏もアメリカ🇺🇸ワークキャンプを開催します

- 【派遣期間】2026年7月17日(金)～7月28日(火)
- 【募集対象】14～20歳の健康な方
- 【募集人数】16名(応募多数の場合は選考あり)
- 【内容】ミネソタ州バーズビル市で開催される1週間のワークキャンプ(家屋修繕、聖書の学び等を通して参加者の信仰的・人間的成長を促す催し)に参加し、同州または近隣州でホームステイも実施予定
- 【テーマ】Illuminate
- 【主題聖句】ヨハネによる福音書 1章1～18節
- 【参加費用】36万円(別途個人負担費用あり)
- 【申込締切】2026年4月30日(木) 必着
- 【参加者説明会】2026年5月23日(土) 13～17時
JELAミッションセンター(東京都渋谷区)にて(参加決定者は出席必須)



詳細な募集要項や応募方法はJELAニュースブログに掲載しております
JELAウェブサイト(jela.or.jp)または下掲2次元コードからアクセスできます!



創始者たちから引き継いだ使命を学校教育に JELA学校教育助成事業

JELAの使命は、「キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人々に仕える」ことです。その理念は、明治時代にキリスト教伝道のために来日したアメリカのルーテル教会の宣教師から受け継がれたものです。これは、JELAの三本柱の事業（世界の子ども支援事業、難民支援事業、奉仕者育成事業）すべてを貫くものですが、特に、奉仕者育成事業は、社会と人々に仕える「奉仕者の心」を育て応援する事業として、この価値が次世代や他分野へ拡大することが期待されています。

奉仕者育成事業のプログラムの一つ、JELA学校教育助成金は、学校

教育を通して世に与えられる影響力の大きさに期待して2021年に創設された、JELAの公益事業の中では比較的新しいプログラムです。

学生が奉仕者として成長するために必要な校内・校外学習のアイデアが、国内外の教育の現場で創意工夫をもって日々考えられています。JELA学校教育助成金には、そうした教育機関の新しい取組み、挑戦を応援したい、という思いが込められています。

採用の基準は、「キリストの愛をもって人々に仕える」というJELAの使命との親和性、計画の公益性、内容の計画性や独創性、計画の発展性な

どの項目です。厳正な審査によって採用された教育機関には、年間100万円を上限として、申請に応じて最長3年間の助成が可能です。

教育の現場からの多種多様なアイデアは、JELAにとっても大きな刺激となっています。

2025年度年間報告書（p5～13）では、助成した6校からいただいた報告を掲載しています。下掲の2次元コードからご覧いただき、ぜひJELAサポーターとして学校教育助成事業も応援してください。

2025年度
年間報告書
(PDF)



◆◆ 2025年度 助成校のご紹介 ◆◆



コイノニア教育センター(ケニア)
貧富の差なく教育を提供する
多目的ホール建設



沖縄三育中学校(沖縄県名護市)
サーバントリーダーシップ教育の推進



尚綱学院大学(宮城県名取市)
障害を持つ市民が参加する
地域包括型のボランティア



松蔭女子学院 松蔭高等学校(兵庫県神戸市)
環境問題啓発活動「Blue Earth Project」



聖学院中学校・高等学校(東京都北区)
ミャンマーの手仕事を通じた
人道支援の啓発活動「inore project」



大阪キリスト教短期大学(大阪府大阪市)
カンボジアの無償保育園運営

2027年度助成校の募集は、
今年4月中旬開始予定です(締切=2026年10月末)
事業の詳細はJELAウェブサイトをご確認ください。

JELA学校教育助成事業の
概要はこちらから





インド・カンボジアのパートナーとオンライン会議 将来の展望と本年度の協働内容を確認



JELAは世界の子ども支援事業でインドとカンボジアを支援しています。年初にあたり1月29日にインドのパートナーであるルーテル・ワールド・サービス・インディア・トラスト (Lutheran World Service India Trust = LWSIT) とカンボジアのパートナーであるルーテル・ホープ・カンボジア・オーガニゼーション (Lutheran Hope Cambodia Organization = LHCO) とのオンライン会議をそれぞれ実施しました。LWSITからはナグ・キショル (Kishore Nag) 事務局長、子ども教育プログラムリーダーのモンダル・ポーリー (Polly Mondal) 氏が出席し、LHCOからはタイ・ボネ (Thay Bone) 事務局長、プロジェクトマネージャーのヒアン・ヴィアスナ (Heang Veasna) 氏が出席しました。

インドでの働き



LWSITとJELAは、2009年からコルカタの貧困地域に住む女兒を支援するための

教育センター「Child Care Institution (CCI)」を共同で運営しています。教育センターでは、6歳から15歳までの女兒約20人が寮生活を送っています。

今回のオンライン会議では、昨年の教育センターの実績として少女たちの教育支援に力を入れつつ、健康管理の強化として栄養補助のビタミン剤の支給や安全のための講習（護身術のための空手）を行なったこと



が報告されました。

これまで、LWSITとJELAは、多くの女兒の教育に貢献しつつ、退所年齢に達した少女たちを先行き不透明なまま世に送り出さざるを得ないというジレンマに直面してきまし

た。今回のオンライン会議で初めて、教育センターでの支援が終わった少女たちが高等教育を希望する場合の新しい支援体制の構築について話し合われました。

JELAは、海外パートナーとの関係強化だけでなく、支援地域の知識を広げるために、役員や委員、JELAサポーターの皆さまの現地視察を毎年計画しています。LWSITによると、インドは11月、12月が一番訪問に適した時期とのこと。JELAサポーターとしてインド視察をご希望の方はぜひJELA事務局にお問い合わせください。

カンボジアでの働き

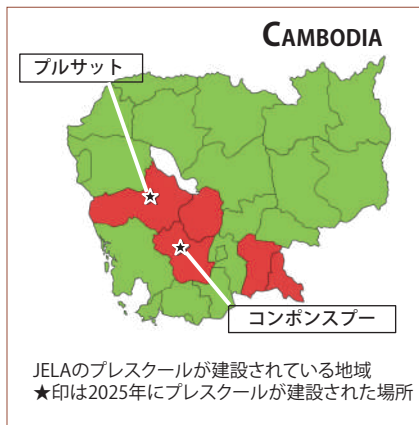


LHCO (旧称LWD) とJELAは、2007年からカンボジア僻地の農村地域にプレスクール (未就学児が通う保育園のような教育施設) を毎年一棟建設してきました。これまでに15棟のプレスクールが完成し、現在、年間800人超の子どもたちに幼児教育の機会を提供しています。

オンライン会議では、昨年ポーサット州とコンボンスプー州に建設された2棟のプレスクールが地域社会に喜ばれ、順調に利用が開始されていることへの感謝の報告がありました。

カンボジアとタイの国境線紛争による農村部への影響と対策については、紛争は収まりつつあるが、タイで職を失ったカンボジア人出稼ぎ労働者の続出が社会問題となっており、その解決に数年を要するという見通しが示されました。

LHCOが農業開発の一環として「Agro-Ecological Products (AEP:自然栽培した農産物や加工品)」というプロジェクトを開始していることを知り、JELAもそのプロジェクトがどのように子どもの生育環境に関連するかを調査する計画です。



LHCOは将来の展望として ①農業における持続可能な生計手段の促進、②首都プノンペンに拠点を置くNGOとの協力促進、③教育におけるデジタル技術導入の促進を掲げています。JELAは、僻地の農村地域の子どもたちのために、①学習時間を増加する支援 (パナソニックとともにソーラーランタンを寄付) ②学習機会の創出 (プレスクール建設)、③ODA獲得援助 (小学校建設AEP関連の食品加工センターの建設) などにおいて継続的協働の可能性があると考えています。この会議で、JELAの2026年度のプレスクール建設地をコンボンスプー州とすることを決定しました。また、秋にはタイ・ボネ事務局長を日本に招待し、カンボジアの子ども支援について講演イベントを開催いたします。詳細は今後ブログやSNSで公開して参ります。どうぞお楽しみに！

JELAは2026年度もインドとカンボジアの子ども支援事業を継続してまいります。活動へのご協力、お祈りとご支援をどうぞよろしくお願いいたします！

JELAは2026年度もインドとカンボジアの子ども支援事業を継続してまいります。活動へのご協力、お祈りとご支援をどうぞよろしくお願いいたします！

Webラジオ「Shikisai」に出演！

株式会社ウェブリカが提供するWebラジオ「Shikisai」に、JELAの役員・職員が出演し、「公益財団法人JELAが描く『支える』という構造——難民支援・教育支援・奨学金事業の実践」というタイトルで、JELAの歴史、使命、活動についてメディアを通して語りました。

Webラジオ「Shikisai」は、長年にわたり一つの地域に根ざして貢献することを目的に運営されている団体、企業にスポットライトを当てるインタビューメディア(インターネットラジオ)です。出演したJELA古屋四朗理事長は、「キリストの愛をもって仕える」というJELAの根幹にある理念や難民支援という40年続くJELAの公益事業の出発点について紹介しました。ほかに、世界の子ども支援としてJELAがカンボジアで展開するプレスクール建設について、子どもの教育に特化した働きの重要性が現地のニーズとともに語られました。小さな団体ながら根気強く取り組んできた一つ一つの事業と団体の歩みを自他ともに評価する機会となりました。2024年4月に公益認定



法人となったJELAは、今後も他団体や支援者の皆さまのご協力を得ながら、世界と日本において「助けを必要とする人々」を隣人として公益的活動に取り組んで参ります。

今回、JELAは、発展途上国の生活を劇的に向上させることが可能な技術・ノウハウを持ち、同時に「人や社会への貢献」という思いを与えられている企業や団体が日本に数多くあると信じて、このラジオ番組に

出演しました。素晴らしい技術・ノウハウをもつ日本企業の皆さまにJELAの公益事業について知っていただき、JELAの支援国における技術提供(主に建築・衛生管理など)によって協働していただけることを期待しています。約20分のラジオトークをぜひお楽しみください。周囲の方にもご紹介いただき、支援の輪をともに広げていただけましたら幸いです。

JELAへの寄付で「税額控除」を受けられるようになりました！

JELAは内閣府による認定を受けた公益財団法人です。JELAへご寄付いただくと、所得税等において優遇措置を受けることができます。2025年12月10日以降のご寄付については、課税所得から控除される所得控除に加えて、所得税額から寄付

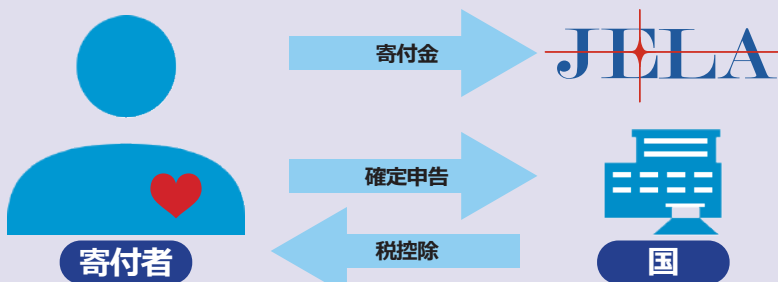
金額の約4割が直接控除される税額控除を選ぶことができるようになりました。税額控除を選ぶと、多くの方々にとって、所得控除よりも控除額が大きくなりますので、これを機会にぜひ、JELAへのご寄付をご検討ください。

控除額の計算式

《税額控除の場合》
 $(\text{寄付金額}^{\ast 1} - 2,000\text{円}) \times 40\%$
※所得税額から直接控除^{※2}

《所得控除の場合》
 $\text{寄付金額}^{\ast 1} - 2,000\text{円}$
※課税所得額から控除

※1 総所得金額の40%が限度
 ※2 控除額は所得税額の25%が限度



※年間の寄付金が5万円で「税額控除」を選択した場合
19,200円が所得税額から直接控除されます

制度の詳細や、個人住民税・法人税の控除制度についてはJELAのウェブサイトをご覧ください



2025年度も ご支援ありがとうございました!



いつもJELAの公益事業をおぼえ、尊いお祈りとご寄付を頂き誠にありがとうございます。2025年度に皆様から頂きました寄付金と実施した活動についてご報告申し上げます。

事業内容をより充実させ、継続的な支援を可能にするために、2026年も皆様にお祈り・ご寄付によるご支援をよろしくお願いいたします。

2025年度に頂いた寄付金……合計8,945,482円

【寄付金の内訳と各事業の主な実施内容】



難民支援

5,748,000円

- ・難民シェルター運営（日本・都内2か所）
- ・難民対象奨学金支給（日本）



世界の子ども支援

909,202円

- ・コルカタ貧困地域の女児救済支援（インド）
- ・学校建築支援（カンボジア）
- ・パナソニック様と協働しソーラーランタン送付（カンボジア）



奉仕者育成

59,334円

- ・次世代リーダー育成のための給付型奨学金支給（日本）
- ・ワークキャンプ運営（インド、アメリカ、日本）
- ・学校教育助成（日本）

一般支援金・サポーター寄付金 2,228,946円

※その他、地震被災者支援（ミャンマー・タイ・日本）も実施

Follow us!



@jela.workcamp



@jelamission



@jelamission



JELAはSDGs（持続可能な開発目標）の達成のために取り組んでいます。

支援者一覧（2025年11月1日～2026年2月28日）

青木孝士/阿部光成/安藤淑子/池田哲也/石森京子/
犬飼通之/大石千絵/太田立男/大嶺愛持・裸覇武・十六夜/
片山良明/勝部久子/鐘ヶ江和馬/亀川榮一/河合暁彦/
川崎松司/北川勝弘/サカキカヲ/京谷信代/グレイ恵子/
小坂敦子/古庄理世/小松由美/小宮俊作/霜尾閑子/
白岩英明/新角房子/杉本洋一・節子/杉山美紀子/
芹田希和子/宗田裕美子/高良研一/竹渕三和子/田代妙子/
橘智/田中美紗子/田中倭子/辻裕子/寺澤陽子/東郷優子/
鳥居香代/永瀬安恒/中村みゆき/中山康子/仲吉智子/
那須幸/西垣親子/西平薫/野口久志/芳賀美江/平岡博・
いづみ/深川育子/福崎知恵子/淵田康穂/古川文江/
古屋四朗/保坂和子/前川隆一/松岡俊一郎/水口博幸/
村岡晶子/村上貞子/森田哲史/八坂由貴子/安田やまと/
谷田部仁美/山内恵美/山口敏子/山之内正俊/
グレイバックローヘル/一般社団法人Welcome Japan/刊物出版
販売協会/グレイ合唱団/恵比寿聖書フォーラム/聖書フォーラム
委員会/浦和ルーテル学院/社会福祉法人バチヤホーム/小城ルー
テルこども園/九州学院みどり幼稚園/神水幼稚園/奈多
愛育園/飯田ルーテル幼稚園/玉名ルーテル幼稚園/ルーテル学院
幼稚園/るうてる愛育園/JELC東教区女性会/JELC蒲田教会
婦人会/JELC東教区ルーテル/JELC玉名教会/JELC天王寺
教会教会学校/JELC保谷教会（以上順不同・敬称略）

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせください。

編集後記

JELAは日本福音ルーテル教会（JELC）とニワトリと卵のような関係にあります。その牧師の一人が半世紀も前にこんなことをおっしゃったそうです。

「世の中が言っていることと聖書が言っていることが矛盾していたら、聖書の方を信じるべきだ」

助けを必要とする人々の「隣人」となるべく、多様で流動的な世界に飛び込み活動するJELAにこそ必要な、骨太で力強い言葉として心に響きました。

聖書には「人は皆、草のようで（中略）草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉は永遠に変わることがない」とあります。歴史の風雪に耐えた思想や哲学ですら、目まぐるしくこの世のトレンドによる採用・不採用を繰り返しています。人には到達しえない正義、慈悲、誠実が神の言葉の中にあります。その神がJELAを、支援先の人々を心に留めてくださっていることが、JELAの公益事業を通して多くの方の知るところとなり、何を第一に置くべきなのかが明らかになることを常に願いながら、事業に取り組んでいます。（ベア薫）

JELAの公益活動を継続的に支える JELAサポーターになりませんか？

年1,000円から！
クレジットカードの自動定額決済がご利用いただけます。



詳しくは で検索



〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
TEL 03-3447-1521 FAX 03-3447-1523
www.jela.or.jp jela@jela.or.jp

JELAへの寄付金は税制優遇の対象となります！
寄付方法や寄付控除の詳細については
JELAのウェブサイトをご覧ください。

